

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100161		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター千葉浜野		
所在地	千葉市中央区村田町799-1		
自己評価作成日	令和4年3月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2022/5/29(文書評価)

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2021年度は思いを実現というスローガンのもと、新型コロナウイルス蔓延の中、ご入居者様やご家族、スタッフの思いをできる限り実現できるように運営をしてまいりました。感染防止策の中で最低限出来ることは実施できていたと思います。毎月のイベントはもちろん、その後様子などご家族様にもお写真と一緒にご報告させて頂いています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍における2年目の運営であったが、先ず利用者と職員の感染防止を第一とした安心・安全なホーム作りに努めた1年間であった。前年度の運営経験を活かし、可能な範囲で活動の幅を広げた支援に心がけた。感染対策をして頂いた家族や知人は条件を緩和し、玄関での面談開始・WEBを使った会見などの実施、行事風景や顔写真入りのほほえみ広報誌やお便りを毎月発行して、家族の理解を深めて頂いている。職員の年代や経験に幅があるので、施設長は毎月のホーム会議や支援中に職員の意見を積極的に聞き、場合によっては職員毎に話し合い、より良い人間関係を作り上げ、諸課題の解決に努めている。法人千葉支店の指導もあり、職員研修会、身体拘束廃止・運営推進会議等の会議は定期的に実施され、支援・サービスのレベルアップに努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境で過ごせるように「誠意・誇り・情熱」を持ち、支援を行っております。	法人社是・経営理念があり、「思いを実現」のホーム独自のスローガンを作成し事務所内に掲げている。家庭的な雰囲気のもとでの理念の実践が出来るようにホーム会議や支援中に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスにより出来ていません。収束後はなるべく参加できるように考えております。	自治会に加入し、地域における夏祭りやお囃子に参加していたが、コロナ禍で殆どが中止となっている。日常の散歩もホーム周辺のみで住民との交流も自粛している。コロナ収束後は地域との交流再開の予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスにより出来ていません。収束後は散歩の際は地域の人に挨拶をして、認知症の理解を深めたいと考えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスにより、文面での通知とさせていただきます。	運営推進会議はコロナ禍により外部有識者も交えての開催は中止し、ホーム関係者のみで年4回開催した。活動状況報告書を基に検討し、議事録は作成し、関係者へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉市の集団指導への参加。事故報告書等の報告・連絡・相談を行っております。	市の集団指導会議へ参加している。市安心ケアセンター浜野とは積極的に交流し各種報告・相談に対応している。グループホーム連絡会の定期的な情報を確認し、市の各種情報も把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や社外研修、毎月の身体拘束廃止委員会を通して、身体拘束をしないケアに取り組んでおります。	身体拘束廃止適正化委員会を毎月開催し、実施報告書も作成している。千葉支店の指導も有り、年間職員研修計画を立て実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、該当する事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回虐待防止の研修を行う事により、虐待を未然に防ぐように意識を高めております。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を理解し、情報等も共有できるようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせ・説明を丁寧に行い、不安や疑問点の解消に努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来訪時、積極的にお話をさせて頂き、情報共有をしています。また運営推進会議等への参加の際に意見や要望を言える機会を設けております。	感染対策を実施頂いた家族や知人は、玄関先での面談を認め、WEB面談も実施している。おたよりと広報誌を毎月家族へ送付し、電話で説明する事もあるが、「ホーム内の体操と散歩の時間を増やして欲しい」等の要望が多い事は理解している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案について、課題や問題点も考えつつ、より良い方向になるように努めています。	ホーム会議や就業中に職員の意見や要望を聞き、課題があればその解決に向けて話し合っている。職員の年代(30~60代)や経験(0~11年)の差があるので、個々の要望が把握できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者にはキャリアアップ制度があります。外部研修(認知症実践者研修や管理者研修等)へ参加が出来るようなシフトを作成しております。また、話しやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修等への参加を促しております。また分からないことを恥ずかしながら、聞ける環境づくりに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のグループホーム連絡会からお知らせが届きますが、参加することが出来ておりません。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時のアセスメントにて課題を抽出し、本人、御家族、関連のある職員等に話を聞き、本人が安心できる関係作りに努めております。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の困っていること、不安なことを伺い、ホーム内で情報を共有し、安心していただけるように努めております。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、必要な支援を見極め提供できるように努めております。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることできない事を見極め、その人に応じた対応を行っております。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の希望を家族に伝え、可能な限り協力していただいております。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスにより面会等を御遠慮いただいておりますが、窓越しで顔だけでもお見せできるような対応をさせていただきました。	知人の面会には条件をつけてるが訪問者も少なく、ホーム及び職員が馴染みの場所・人となっている。節分・雛祭・七夕等の馴染み行事を毎月開催し、往時を懐古して頂いている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようにレクリエーションを行ったり、スタッフや他の入居者との会話しやすい環境を作っております。また、座席の検討もおこなっております。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	知りうる限り、亡くなられた方の葬儀への参列させていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での一言など、御本人の意向等把握しております。	会話を大切にしており、普段の何気ない一言から本人の思いや意向の把握に繋げ、困難な場合は表情・動作等から推察し、職員間で情報を共有している。家族アンケートにも、本人の意思を尊重してくれる等の意見が寄せられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御入居前のアセスメントにおいて、御家族等に協力を仰ぎ、情報を得ております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書や介護記録、申し送り等を活用し、有する能力の現状把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議において課題等の抽出を行い、現状に即した介護計画書の作成に努めております。	介護記録や申し送り・管理日報等を基に担当者会議で検討し、介護計画を作成している。見直しは必要な都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りや管理日報等を活用し、職員間で共有を図り、その都度見直し等を行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容、マッサージ、ボランティア等の受け入れを行っております。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスにより、地域の行事に参加が出来ていません。 そのため、施設内でのイベントで他入居者様同士の交流や気分転換に努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受けております。状況に応じて往診。夜間帯等は電話にて連絡が出来る体制になっております。	入居に際しホームのかかりつけ医に変更をお願いしている。月2回の訪問医療及び夜間のオンコール・訪問看護師週1回・訪問歯科週1回等の受診支援をしている。専門医等の受診時は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師が来て、身体面や精神面での相談に応じております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーや連携シートの活用をしております。退院時は看護サマリーや診療情報提供書を頂き、情報の共有に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の指針」の説明と同意を頂いております。御家族や主治医、スタッフ等で話し合い、御希望に添えるように努めております。	契約時に、事業所指針の説明を行い同意を得ている。重度化した場合は早い段階で再確認している。家族の意向を基に、主治医の指示の下、職員・関係者でチームケアに取り組んでいる。今期もお一人の看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、迅速に対応できるように体制を整えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っております。また、地域の避難訓練にも参加しております。	消防署立会及び自主の年2回の避難訓練を実施、緊急時の避難方法の習得に努めている。また地域との協力体制を築いている。7日分の食品・備品等の備蓄を用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り等を活用し、一人ひとりを把握し、できる部分は行っていただき、出来ない部分は支援しております。言葉掛けも一人ひとりに合うように対応しております。	申し送り等から情報の共有を図り、個々人に合った言葉掛けや対応をしている。本人・家族の了解の下、愛称で呼ぶこともある。入浴・排泄時にはプライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好みを聞いたり、献立にも参加していただけるように努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同で、生活をしておりますが、一人ひとりのペースを大切に出来るように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理美容で、好みの髪型にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、好み等聞いております。後片付け等行っていただいております。	食事が楽しめるよう好みを聞いたり、本人の咀嚼・嚥下状態に応じた食形態で提供している。出来る方は後片付け等を職員のフォローのもと行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが摂れた献立を参考に調理を行い、一人ひとりに合った食事形態で提供しております。また、その都度記録し、健康状態の把握に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じて、口腔ケアを行っております。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見逃さず、トイレでの排泄が継続できるように支援します。	オムツやパッド使用の方も多くなっているが、個々の排泄パターンを把握して、日中はなるべくトイレでの排泄が継続出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や、乳製品等を摂取して頂き、便秘の予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回安全に入浴ができるように対応しております。また、拒否がある場合は声掛けやタイミング等見ながら、柔軟に対応しております。	週2~3回の入浴を基本とし、状態に応じシャワー浴や季節により菖蒲湯等で支援をしている。拒否の方には対応者や時間変えたり柔軟な支援で、全員が入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度等に配慮し、寝やすい環境を整えております。夜間は2時間おきに巡回し、安否確認を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が管理しており、スタッフは薬剤師より薬についての情報を共有しております。変化が見られた際は主治医に連絡・相談を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事のお手伝いをさせていただいております。体操や塗り絵等を取り入れ、気分転換を図っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスにより外出が出来ていないが、施設内で出来ることを考え実践しています。新型コロナウイルスの収束後には再度、地域とも連携をしていきたいと思っております。	外出支援が出来ない分、毎日館内で体操したり、外気浴を兼ね施設周りで花の鑑賞をする等支援している。また節分や雛祭等の各行事毎に小物や小道具を制作して、利用者の気分の高揚を図り楽しい時間になるよう支援している。	



50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人規定により、個人での金銭の管理はご遠慮いただいております。事務所で管理しているお小遣いは自由に使うことができます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができるように支援しております。電話については、本人の訴えにより、また本人の意思により、事業所の電話や本人の携帯電話でご家族等に電話が出来るようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、不快のないように心がけております。また、装飾も行い、季節感を意識し、居心地がよく過ごせるように工夫しております。	玄関には消毒液等設置し、面会は玄関として、外部からの入館は行っていません。廊下・居間・台所等の共有空間は普段から清潔に努め音・光・温度湿度等にも配慮している。季節毎の装飾を行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座席は気の合った利用者になるように心がけております。座席以外の椅子やソファは自由に使えるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただき、生活がしやすいようにご家族に協力していただいております。	利用前の自宅の雰囲気が大きく変わらないように、使い慣れた物を持ち込んで頂いている。転倒防止やレイアウトに配慮し安全・安心して過ごせるようにしており、利用者毎の特徴がある。掃除は利用者と職員と一緒に実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっております。見通しもよく、安全に生活ができるようになっております。		